

【福岡女学院教会 主日家庭礼拝】

2024. 7. 21.

聖霊降臨節 第10主日

黙 想 (黙 禱)

招 詞 ヤコブよ、あなたを創造された主は
イスラエルよ、あなたを造られた主は今、こう言われる。
恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。
わたしはあなたの名を呼ぶ。 (『讃美歌 21』93-1-5)

讃美歌 476 (あめなるよろこび)

主の祈り

讃 詠 28 (み栄えあれや)

聖 書 使徒言行録 15章22節～35節
(新約 243頁)

信仰告白 使 徒 信 条

メッセージ 「使徒会議の決議」 多田玲一牧師

祈 禱 ※それぞれ自由にお祈り下さい

讃美歌 471 (勝利をのぞみ)

頌 栄 29 (天のみ民も)

黙 想 (黙 禱)

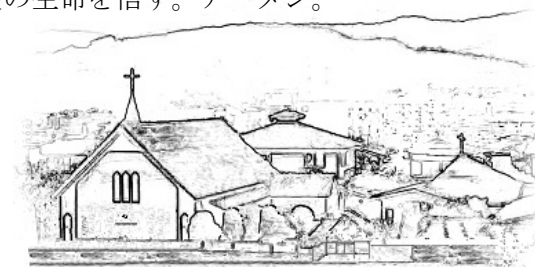
◎ 讃美歌は歌詞を読むだけでも結構です。

【主の祈り】 (『讃美歌 21』93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあげさせたまえ。
み国を来(きた)らせたまえ。
みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。
我らの日用(にちよう)の糧(かて)を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、悪より救い出(いだ)したまえ。
国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。
アーメン

【信仰告白 使徒信条】 (『讃美歌 21』93-4-A)

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがへり、
天に昇り、全能の父なる神の右に坐したまへり、
かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、
身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。アーメン。



日本基督教団 福岡女学院教会

牧 師 多田玲一

協力牧師 青木麻里子、大島一利

〒811-1321 福岡市南区柳瀬1丁目41-32

TEL 092-591-5627 (Fax 兼)

教会ホームページ [http:// www.fukujoch.com/](http://www.fukujoch.com/)

(教会創立 1946年6月2日)



7月21日 使徒言行録 15章22節～35節

◆使徒会議の決議

- 22 そこで、使徒たちと長老たちは、教会全体と共に、自分たちの中から人を選んで、パウロやバルナバと一緒にアンティオキアに派遣することを決定した。選ばれたのは、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスで、兄弟たちの中で指導的な立場にいた人たちである。
- 23 使徒たちは、次の手紙を彼らに託した。「使徒と長老たちが兄弟として、アンティオキアとシリア州とキリキア州に住む、異邦人の兄弟たちに挨拶いたします。
- 24 聞くところによると、わたしたちのうちのある者がそちらへ行き、わたしたちから何の指示もないのに、いろいろなことを言って、あなたがたを騒がせ動揺させたとのことです。
- 25 それで、人を選び、わたしたちの愛するバルナバとパウロとに同行させて、そちらに派遣することを、わたしたちは満場一致で決定しました。
- 26 このバルナバとパウロは、わたしたちの主イエス・キリストの名のために身を献げている人たちです。
- 27 それで、ユダとシラスを選んで派遣しますが、彼らは同じことを口頭でも説明するでしょう。
- 28 聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました。
- 29 すなわち、偶像に献げられたものと、血と、絞め殺した動物の肉と、みだらな行いとを避けることです。以上を慎めばよいのです。健康を祈ります。」
- 30 さて、彼ら一同は見送りを受けて出発し、アンティオキアに到着すると、信者全体を集めて手紙を手渡した。
- 31 彼らはそれを読み、励ましに満ちた決定を知って喜んだ。
- 32 ユダとシラスは預言する者でもあったので、いろいろと話をして兄弟たちを励まし加づけ、
- 33 しばらくここに滞在した後、兄弟たちから送別の挨拶を受けて見送られ、自分たちを派遣した人々のところへ帰って行った。
- +
- 35 しかし、パウロとバルナバはアンティオキアにとどまって教え、他の多くの人と一緒に主の言葉の福音を告げ知らせた。
- 34 (+底本に節が欠落 異本訳) しかし、シラスはそこにとどまることにした。

※聖書は本文は全て、日本聖書協会『聖書 新共同訳』